

かんようじていえん
漢陽寺庭園

1 文化財の所在地

周南市大字鹿野上

2 所有者

漢陽寺

3 年代

応安 7年（1374） 漢陽寺創建

昭和44年～48年（1969～73） 庭園作庭

4 登録基準

造園文化の発展に寄与しているもの

5 概要

漢陽寺は応安7年（1374）に創建されたと伝わる禅宗寺院で、周南市北部の鹿野地域の山裾に位置する。庭園は、昭和43年（1968）に当時の住職らが、作庭家で庭園研究者の重森三玲（1896～1975）に作庭を依頼し、昭和44年から数年をかけて造られた。

漢陽寺の裏山には、17世紀半ばに掘られた灌漑用のトンネル「潮音洞」があり、重森はそこから流れ出る多量の水を用いて「曲水の庭」を造ることを考えた。本堂（方丈）の南にある「曲水の庭」は、曲水を中心としつつ枯山水を融合させ、潮音洞から分流した水を流す。本堂の北と東には、同様に潮音洞からの水を流す「蓬萊山池庭」「九山八海の庭」が、中庭として現在「地藏遊化の庭」と呼ばれている枯山水がそれぞれ造られた。重森はそのほかにも、自身が設計した建物に「瀟湘八景の庭」を、山門前に「曹源一滴の庭」と呼ばれる枯山水を造った。

漢陽寺庭園は作庭家重森三玲がさまざまな様式、主題、意匠で造った複数の庭園から構成され、造園文化の発展に寄与した意義深い事例である。

漢陽寺庭園

- ・ 曲水の庭



- ・ 地藏遊化の庭



・瀟湘八景の庭

